

小学生向けの 現場見学会を開催

日建連は昨年十一月二十六日、(株)奥村組との共催で、長崎県大村市の市立大村市民病院改築工事現場で小学生向けの現場見学会を開催した。今回の見学会は、昨年八月二十三日に長崎県庁舎行政棟新築工事現場で開催した「けんせつ

小町活躍現場見学会」に保護者として参加された本澤知子さんより、お子さんが通う小学校のクラスレクリエーションの一環として、地元の大規模工事現場を見学したいという相談を受けたことがきっかけで実現した。

当日は、大村市立富の原小学校六年五組の子供たちとその家族、担任教諭を含めた二十三名が参加。会の冒頭で、地元の木工所に勤める本澤さんは、「建設業界には若い人がなかなか入ってこないことを心配していたが、八月のけんせつ小町活躍現場見学会に参加して、『これだ!』とひらめいた。普段私たちは工事現場を見る機会がなく竣工後のきれいな建物しか知らないが、子供たちが将来仕事について考える時、『小学生の時に見た工事現場で働く人たちはかっこよかったな』『建物をつくる仕事ってすごいな』という記憶が少しでもあれば、そういう道があることも思い出してもらえないのではないかと。どこで何に興味を持つかわからないので、いろいろなものを見て視野や可能性を広げても

らいたい」と熱い胸の内を語った。
続いて(株)奥村組の村本昌志工事主任がプロジェクターを使って工事概要を説明。その後、子供たちは手ほどきを受けながらヘルメットや説明用トランシーバーを装着し現場へと向かう。地上六階建ての新しい市民病院は本年四月のプレオープンを目指して工事が順調に進んでおり、当日は黒を基調とした正面玄関の外観も見ることができた。保護者からは「ずいぶんモダ



クロス貼り作業を体験する子供たち

ンになるのね」と弾んだ声が聞こえてきて、現場へ向かう足取りが一段と軽くなる。

現場内では、六階で室内の施工状況を見学した後、最上階からの眺望を確認。子供たちは富の原小学校方面を眺めて自分たちが学ぶ校舎を懸命に探していた。次に三階に移動して手術室を見学した。まだ剥き出しの天井の配管やテレビ等でしか見たことのない手術室ならではの設備に、子供たちだけでなく保護者も興味深々だ。そして、いよいよお仕事体験の時間がやってきた。二班に分かれてクロス貼り作業と高所作業車試乗を体験する。まずはクロス工の職人さんにお手本を見せてもらい、好きな柄のクロスを選んでヘラを片手に仮設ボードに貼っていく。

上下逆さまに貼ってしまった女の子は、少し悔しそうだが満足した表情で自分が貼ったクロスをなでていた。高所作業車には、現場で実際に使用している安全帯をつけて試乗した。初めての安全帯に「重い!」という声があちこちからあがったが、嬉しそうに天井に手を伸ばす子供たちは今日一番の笑顔を見せた。

最後に質疑応答が行われ、「安全対策はどんなことをしているの?」「工事にかかったお金はいくら?」等鋭い質問に対して、(株)奥村組の三好規示工事所長や村本主任が一つひとつ丁寧に答えていた。

帰り道、子供たちは「お母さんは危ないって心配していたけれど、全然危なくなってきた!

だった!」「みんな笑顔で楽しそうに仕事をしていた」と口々に感想を述べ合っていた。(株)奥村組の北野孝之九州支店建築部長や三好工事所長たちが語った自身が建設業を目指そうと思ったきっかけとこの仕事をしていて嬉しかったことは、これからたくさんの方が待っている子供たちの心にどう響いたのだろうか。

日建連では、建設業への理解促進や担い手確保に関する様々な取り組みを行っているが、建設業の根幹にある「ものづくり」の最前線である現場を見ることが、それらに繋がる大きな道のひとつではないかと考えている。今後も、会員企業の理解と協力を得ながら、建設業の魅力を伝えるために精進していきたい。



上/富の原小学校6年5組の生徒さんご家族、先生たち
下/見学会の開催に協力くださった(株)奥村組の皆さん

(株)奥村組 北野孝之 九州支店建築部長のコメント

我々も楽しかったし、自分の子供にもいつか現場を見せたいと思った。私は常に現場所長に対して「もっとかっこつけろ」と言っている。若い職員がその姿を見て自分を磨き、さらにそれを見た子供たちが憧れの気持ちを持ってもらえるくらいになれば建設業界の将来も楽しみだ。

(株)奥村組 三好規示工事所長のコメント

この現場で小学生の見学会を開催したのは初めてだったので、安全面には特に気を付けた。今回の見学を機に、建設業の仕事や工事現場に興味を持ってくれたら嬉しい。



右/手術室の内装を見上げる参加者たち
左/大村市立富の原小学校6年5組評議の本澤さん親子